

確認しよう

# 形容詞について

読んだらチェックしよう

## 1 形容詞の性質

事物の性質や状態を表し、言い切りの形が「し」または「じ」となる語を形容詞と言います。形容詞は自立語で活用があり、単独で述語となることができます。

○手などつたなからずはしりがき、声をかしくて拍子とり、いたましよう  
字など へたでなくすらすらと書き (宴席では声がよくて音頭をとり (酒を勧められると迷惑そうにするものから、下戸ならぬこそ男はよけれ。 (徒然)

右の傍線部が形容詞です。語形の変化に注目しておいてください。

## 2 形容詞の活用の種類

現代語では、形容詞の活用の種類は一種類しかありませんが、古典語では、活用のしかたの違いから、次の二種類に分けられます。

(1) **ク活用**……活用語尾が、「く・し・き・けれ・から・かり・かる・かれ」のようになります。たとえば、「よし」という形容詞は、次のように活用します。(活用表は32ページに掲載します。)

- 〔未然形〕 よからむ。よからず。
- 〔連用形〕 よくて、よかりけり。
- 〔終止形〕 よし。
- 〔連体形〕 よき時、よかるべし。
- 〔已然形〕 よけれども、よければ、
- 〔命令形〕 よかれ。

(2) **シク活用**……活用語尾が、「しく・し・しき・しけれ・しから・しかり・しかる・しかれ」のようになります。たとえば、「かなし」という形容詞は、次のように活用します。(活用表は32ページに掲載します。)

- 〔未然形〕 かなしからむ。かなしからず。
- 〔連用形〕 かなしくて、かなしかりけり。
- 〔終止形〕 かなし。
- 〔連体形〕 かなしき時、かなしかるべし。
- 〔已然形〕 かなしけれども、かなしければ、
- 〔命令形〕 かなしかれ。

## 3 ク活用とシク活用の区別のしかた

助詞の「て」をつけて、「よくて」「強くて」のように、「くくて」となる場合はク活用、「かなしくて」「うれしくて」のように、「しくくて」となる場合はシク活用です。

## 4 形容詞の音便

形容詞の音便は、連用形と連体形にあらわれ、次の三種類あります。

(1) **イ音便**……連体形活用語尾「き」「しき」が、名詞や助詞「かな」などに続く時、「き」が「い」に、「しき」が「しい」になることがあります。

●若き人 ↓ 若い人 うれしきこと ↓ うれしいこと

(2) **ウ音便**……連用形活用語尾「く」「しく」が、用言や助詞「て」などに続く時、「く」が「う」に、「しく」が「しう」になることがあります。

●高く ↓ 高うて かなしくて ↓ かなしうて

(3) **撥音便**……連体形活用語尾「かる」「しかる」が助動詞「なり」(伝聞・推定)

「めり」「べし」などに続く時、「かん」「しかん」となることがあります。ただし、この「ん」は表記されることがありますが、読む時は「ん」を入れて読みます。

●多かるなり ↓ 多かんなり ↓ 多かなり  
 ●をかしかるめり ↓ をかしかんめり ↓ をかしかめり

〔未然形〕 堂々たらむ。堂々たらず。(

# 8

## 形容詞

よく読もう

### 形容詞の活用について学ぼう

古典語の形容詞の活用の種類が二種類あることは、30ページで述べた通りですが、改めて語幹に漢字を当てて示します。

#### ク活用

良からむ。  
〔未然形〕

良くて、  
〔連用形〕

良かりけり。  
〔連用形〕

良し。  
〔終止形〕

良き時、  
〔連体形〕

良かるべし。  
〔連体形〕

良けれども、  
〔已然形〕

良かれ。  
〔命令形〕

#### シク活用

悲しからず。  
〔未然形〕

悲しくて、  
〔連用形〕

悲しかりけり。  
〔連用形〕

悲し。  
〔終止形〕

悲しき時、  
〔連体形〕

悲しかるべし。  
〔連体形〕

悲しければ、  
〔已然形〕

悲しかれ。  
〔命令形〕

これを活用表にすると、次のようになります。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
良 <sup>よ</sup> し	良 <sup>よ</sup>	〔く〕 から	く かり	し	き かる	けれ	かれ
悲 <sup>かな</sup> し	悲 <sup>かな</sup>	〔しく〕 しから	しく しかり	し	しき しかる	しけれ	しかれ

下に続く主な語「ず・む(ん)て・動詞き・けり(言い切る)時・ことば・ども(命令で言い切る)」

右の表で、「良し」「悲し」とともに、各活用形を二行に分けて示していますが、右側「〔しく〕・(し)く……」の行を本活用、左側「〔し〕から・(し)かり……」の行を補助活用またはかり活用と言います。補助活用(かり活用)は、主に助動詞に続いていく際に用いられます。

### 練習 1

#### 基本事項の学習

① 例にならって活用表を完成させなさい。

⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	例	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
美 <sup>うつく</sup> し	恋 <sup>こひ</sup> し	憎 <sup>にく</sup> し	悪 <sup>わる</sup> し	悪 <sup>あ</sup> し	強 <sup>よ</sup> し	嬉 <sup>うれ</sup> し	無 <sup>な</sup> し	無 <sup>な</sup>	から	〔く〕 から	く かり	し	き かる	けれ	かれ	ク活用
活用	活用	活用	活用	活用	活用	活用	ク活用	活用の種類								

#### 基本事項の学習

1~3

/100

#### 反復学習で確認

1~2

/50

#### 文章問題で定着

問一~問四

/50

/100

2 次の傍線部①～⑦の形容詞について、基本形と活用形を答えなさい。

- (1) めでたしと見る人の、心劣りせらるる本性見えむこそ、口惜しかるべけれ。  
例 (1) めでたしと見る人の、心劣りせらるる本性見えむこそ、口惜しかるべけれ。  
素外つまらなく感じられる本性が見えるのは (1) 徒然

- (2) 道に心得たるよしにやと、かたはらいたかりき。  
その道に心得があるとういことを見せようとしたのだろうか (2) 徒然

- (3) 初心の人、二つの矢を持つことなかれ。  
初心者は 二本の (3) 徒然

- (4) ゆかしからぬことぞ。  
見たくもないことだ (4) 枕

- (5) いざ、かぐや姫、穢き所に、いかでか久しくおはせむ。  
いざ、かぐや姫、穢き所に、いかでか久しくおはせむ。 (5) 竹取

- (6) 風吹き波荒ければ、船出ださず。  
荒いので (6) 土佐

⑥	④	②	例
・	・	・	めでたし・終止形
形	形	形	形
⑦	⑤	③	①
・	・	・	・
形	形	形	形

2 4点×7

3 次の傍線部①～⑩の形容詞について、基本形・活用の種類・活用形を答えなさい。音便形については、音便の種類も併せて答えなさい。

- (1) わかくよろしき男の、下衆女の名呼び馴れて言ひたるこそ、にくけれ。  
例 (1) わかくよろしき男の、下衆女の名呼び馴れて言ひたるこそ、にくけれ。  
まあまあ 男が 下衆女の名を 百使いの女の名を (1) 枕

- (2) 命長ければ恥多し。長くとも四十に足らぬほどにて死なむこそ、めやすかるべけれ。  
命長きをすすむこと必ず 死ぬのが (2) 徒然

- (3) 大蔵卿ばかり耳とき人はなし。  
おほくらそう 大蔵卿ほど (3) 枕
- (4) 屋の様も高う、け遠けれど、すずろにをかしうおぼゆ。  
ひと気のない感じだが、何というわけもなく (4) 枕
- (5) 異なる様もなかりけり。  
格別変わった様子も (5) 徒然

⑩	⑧	⑥	④	②	例
・	・	・	・	・	わかし・ク活用・連用形
活用・	活用・	活用・	活用・	活用・	活用・
⑪	⑨	⑦	⑤	③	①
・	・	・	・	・	・
活用・	活用・	活用・	活用・	活用・	活用・

3 4点×11

【「じ」で言い切る形容詞】

「いみじ」「すさまじ」「同じ」のように、「じ」で言い切る形容詞があります。が、これらも「ジク活用」とは言わず、「シク活用」と呼びます。また、「同じ」という形容詞の連体形は、活用表に従えば「同じき」となりますが、「同じ」の形でも連体修飾語として用いられます。



練習2 反復学習で確認

50

1 次の空欄 A ~ E を補うのに、それぞれの末尾の ( ) に指示された条件に沿って書きなさい。

(例) [ ] こともやみぬ。「苦し」の連体形 (竹取)

(1) 人の志 [ ] A なり。「ひとし」の連体形撥音便 (竹取)

(2) あな [ ] B や。「めでたし」の語幹 (徒然)

(3) 世は定めなきこそ [ ] C。「いみじ」の已然形 (徒然)

(4) 法師ばかり [ ] D ぬものはあらじ。「うらやまし」の未然形 (徒然)

(5) 用なき歩きは、 [ ] E けり。「よしなし」の連用形 (竹取)

C	(例)			
	苦しき	A	B	
D				
		E		

1 3点×5

2 次の傍線部 ① ~ ⑭の中から、形容詞を七つ選んで番号を書き、それぞれ基本形・活用の種類・活用形を書きなさい。音便形については音便の種類も併せて答え、撥音便の撥音無表記の場合は、その旨付記しなさい。

(1) この世に生まれては、願はしかるべきこと多かめれ。 (徒然)

(2) うちとけず苦しいことにおぼいたり。 (源氏)

(3) いとをさなれば、籠に入れてやしなふ。 (竹取)

(4) 千余日に力を尽くしたること、すくなくらず。 (竹取)

(5) 杯、異人に取らするほどの気色、いみじうにくしと見ゆ。 (枕)

番号	基本形・活用の種類	活用形	番号	基本形・活用の種類	活用形
(例)	なし	ク活用	命令形		
	活用	活用	活用	活用	活用
	活用	活用	活用	活用	活用
	活用	活用	活用	活用	活用

2 5点×7

3ステップ モアワン

「語幹の用法」

形容詞の語幹は活用語尾を伴わずに独立して用いられることがあります。その代表的な用法は次の通りです。なお、シク活用の形容詞は、語幹の用法では終止形の形が語幹の役割を果たします。

① 感動詞に語幹がついてより感動的な表現となる。  
あなをさなや。(まあ幼稚なこと。)

② 助詞「の」がついて、連体修飾語になる。  
くちをしの花のちぎりや。(不運な花の運命よ。)

③ 体言+(を)+形容詞語幹+接尾語「み」の形で、原因・理由を表す表現となる。「がので」と訳す。  
山高み(山が高いので) 野をなつかしみ(野原に心ひかれるので)

桐きりの木の花、紫むらさに咲きたるは、なほをかしきに、葉はのひろひろこりこりざまざまぞうたてぞうたてこちたけれど、異木ことぎどもとひとしひとし

紫色に咲いているのは、

やはり

広がり方が

いやに

他の木々と

同列に論ず

う言いふべきにもあらず。唐土たうとにことごとしき名なつきたる鳥とりの、選えりてこれにのみあるらむ、いみじう心こころことなり。

※もうし

選んで

この木にだけ

※とまるというのは、たいそう

格別な思いがする。

まいて琴ことに作りて、さまざまなる音ねの出いで来るなどは、をかしなど、世よの常に言いふべくやはある。いみじうこそ

まして「桐を使って」琴を作った

世間一般に

言うべきだろうか、いや言うべきでない。

めでたけれ。

〔枕草子・木の花は〕

●語注  
※唐土——中国のこと。

※ことごとしき名つきたる鳥——

大げさな名前のついている鳥。

鳳凰ほうおう(古代中国の想像上の鳥のこと)。

※ある——本来は「座る」意。ここでは鳥が「居座る」つまり、とまると、棲みつくなどの意になる。

問一 次の活用表を完成させなさい。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
あやし								活用
うし								活用
かたし								活用
やさし								活用

4点×4

問二 波線部「ひとしう」について、その基本形を書き、かつ文中での活用形を答えなさい。音便形の場合はその種類も答えなさい。(以下同じ)。

5点

問三 二重傍線部①～④の形容詞について、基本形・活用の種類・文中での活用形を答えなさい。

③	①
④	②

5点×4

問四 読む 右の文章において、作者が「桐の木の花」の咲いている様子について、肯定的な評価をするのに用いている形容詞を二語、否定的評価をするのに用いている形容詞を一語抜き出して、それぞれ終止形になおして答えなさい。

肯定的評価	否定的評価

3点×3